

表 5-12 猛禽類集計用紙

種 名： _____ 定点 _____
 時 期： 越冬期 ・ 繁殖期 ・ 春の渡り ・ 秋の渡り
 調査期間： _____ 年 月 日 ~ _____ 年 月 日

定点	調査日・ 調査時間	調査者名 天候	確認・ 確認時間	数・性 ・ 齢	行動・その他
	年 月 日 : ~ :		目撃・声 分		
	年 月 日 : ~ :		目撃・声 分		
	年 月 日 : ~ :		目撃・声 分		
	年 月 日 : ~ :		目撃・声 分		
	年 月 日 : ~ :		目撃・声 分		
	年 月 日 : ~ :		目撃・声 分		
	年 月 日 : ~ :		目撃・声 分		
	年 月 日 : ~ :		目撃・声 分		
	年 月 日 : ~ :		目撃・声 分		
	年 月 日 : ~ :		目撃・声 分		
	年 月 日 : ~ :		目撃・声 分		
	年 月 日 : ~ :		目撃・声 分		
	年 月 日 : ~ :		目撃・声 分		
	年 月 日 : ~ :		目撃・声 分		
	年 月 日 : ~ :		目撃・声 分		
	年 月 日 : ~ :		目撃・声 分		
	年 月 日 : ~ :		目撃・声 分		
	年 月 日 : ~ :		目撃・声 分		
	年 月 日 : ~ :		目撃・声 分		
	年 月 日 : ~ :		目撃・声 分		
	年 月 日 : ~ :		目撃・声 分		
	年 月 日 : ~ :		目撃・声 分		
	年 月 日 : ~ :		目撃・声 分		

表 5-13 鳥類定点調査用紙 (サギ類、シギ・チドリ類用)

調査者名： _____ 調査場所 _____
調査日時： _____ 年 _____ 月 _____ 日 _____ 時 _____ 分 ~ _____ 時 _____ 分
天候： _____ 風： 無 ・ 弱 ・ 中 ・ 強 _____

種名	数	ポリゴン番号	環境	その他

5. 調査項目と調査方法

1) 重点地域の鳥類相の調査

①調査の意義

重点調査地域の鳥類相の調査は全ての鳥類を対象とする。この調査により調査地域全体の鳥類相が把握できると共に、指標生物選定の基礎データとなる。生息環境、食性、分布は種により異なるが、天敵はイタチ等の肉食、雑食の哺乳類と、猛禽類等の食物連鎖における上位の鳥類である。

人為的インパクトにより、ある一定の地域で環境が変化することにより、種構成や種ごとの出現頻度が変わる。例えばウグイスは藪のない林には少ないため、薪炭林で下草刈り等がこまめに行われると個体数が減少する。またクロジも同様に下生えにササのよく茂った暗い林を好む。一方シジュウカラはササの全くない林で優占種になる傾向にあるため、薪炭林等で下草刈りがこまめに行われれば、これらの種の優占度が上がる可能性が高い。

調査の時期は繁殖期と越冬期にそれぞれ最低 3 回とする。雨天時や強風時には鳥が活動しないため、調査は行わない。繁殖期や越冬期は地域により少しずつ異なるため、地域ごとの調査適期の目安を表 5-14 にまとめた。

②調査方法

調査コースを時速 2km ほどで歩きながら、片側 25m 以内（合計 50m）に出現した種について、種名、個体数、行動、ポリゴン番号等を調査用紙に記録する。なお調査範囲外で出現した種は、備考欄に種名を記載する。

調査は一人または少人数で行い、多人数での調査は避ける。

③まとめ

調査結果についてはコース毎に出現種、種ごとの個体数を集計し、出現頻度を計算する。

表 5-14 地域ごとの鳥類相調査の適期

地域	繁殖期	時間	越冬期	時間
沖縄	4 月	AM6:30~9:00	12 月中旬~2 月中旬	AM8:00~11:00
近畿以西	4 月下旬~6 月	AM5:30~9:00	12 月中旬~2 月中旬	AM8:00~11:00
本州以北	4 月下旬~6 月	AM5:00~9:00	12 月中旬~2 月中旬	AM8:00~11:00
北海道	6 月~7 月上旬	AM5:00~9:00	12 月中旬~2 月中旬	AM8:00~11:00

出典：鳥の生息環境モニタリング調査ガイド I 森林と草原を調べる。1993. 日本野鳥の会研究センター。

2) 猛禽類調査（指標種群例）

①調査の時期

調査の時期は基本的に繁殖期（4 月~6 月）と春・秋の渡りの時期とし、可能な場合には越冬期（11 月~3 月）にも調査を行う。越冬期の調査、繁殖期の調査はそれぞれ最低 1 日ずつ、春・秋の渡りの時期にも最低 1 日実施する。また雨天時や強風時には鳥が活動しないため、調査は行わない。

②調査方法

定点調査は、最低でもある 1 定点で 1 時間の観察を行う。定点から目視により飛翔個体を観察し、発見した場合には確認した種の種名、場所、行動を地図上に記録する。また同時に調査用紙にも記入する。

繁殖期の調査は必ず専門家等のアドバイスを受けて、猛禽類の繁殖に影響が出ないよう最大限の配慮を払い、可能な場合にのみ調査を行う。定点が営巣地に近く、繁殖の妨害の恐れがある場合にはそ

の定点は使用しない。また繁殖確認は、巢外育雛期等の最も繁殖に影響の少ない繁殖ステージに行う。猛禽類保護のために繁殖データの管理を厳密に行うよう十分留意する。

③まとめ

調査時期ごとに調査データを集計する。地図は記録された種ごとに1枚にまとめる。調査用紙は集計し、種ごとに1枚にまとめる。

3) サギ類調査（指標種群例）

①調査の時期

調査の時期は一年中で、月1回程度、晴れた日に行う。調査は日中であれば時間は定めない。

②調査方法

見晴らしの良い場所に定点をとり、種と個体数を記録する。1箇所の定点で調査地全体を見渡せない場合は、複数の定点を設定するかまたは移動しながら調査を行う（移動定点）。移動しながら調査する際は、同じ個体を重複してカウントしないように注意する。調査時に定点の周辺の環境と、定点から見える調査地の全景を写真撮影する。撮影の際はどの位置からどの角度で撮ったか等を、後でわかるように地図上に記入する。

調査地周辺に同様な環境がある場合には、後に比較用の資料とするため、同様な方法でカウントを行い、記録をとる。なお、他に注目すべき種（猛禽类等）を確認した場合には、種名、数、性、齢、確認の方法（目撃、声）、確認時間、行動等、必要事項を記録する。

③まとめ

1年を単位として種ごとにデータを集計する。

4) シギ・チドリ類調査（指標種群例）

①調査の時期

調査は春と秋の渡りの時期とする。渡りのピーク時に1回、その2週間前と2週間後にそれぞれ1回、あわせて3回行う。渡りの時期は地域ごとに異なるため、調査時期の目安を表5-15に示した。

表 5-15 地域ごとのシギ・チドリ類相調査の適期

地域	春	秋
九州	4月下旬	9月下旬
関西	4月下旬～5月上旬	8月上旬～下旬
関東	4月下旬～5月上旬	8月下旬
東北	5月上旬	9月頃
北海道	5月下旬	8月下旬～9月上旬

出典：鳥の生息環境モニタリング調査ガイドⅡ 干潟と河原を調べる，1995．日本野鳥の会研究センター．

②調査方法

見晴らしの良い地点に定点をとり、種と個体数を調査する。1箇所の定点で調査地全体を見渡せない場合は、サギ類の調査と同様に複数の定点を設定するか、移動しながら調査を行う（移動定点）。その際同じ個体を重複してカウントしないように注意し、個体数が多い場合には1回の調査で3回カウントして確認する。その他の注意事項については、サギ類調査と同様とする。

③まとめ

1年を単位として種ごとにデータを集計する。

6. 成果品

- ・ 鳥類センサス調査用紙 (表 5-9)
- ・ 鳥類センサス集計用紙 (表 5-10)
- ・ 猛禽類調査用紙 (表 5-11)
- ・ 猛禽類集計用紙 (表 5-12)
- ・ 定点調査用紙 (表 5-13)
- ・ 調査地周辺の写真

7. 他の調査項目との関係

鳥類は基本的には移動能力が大きいため、人為的インパクトによる直接的な影響は受けにくい。しかしある種の鳥類の繁殖場や餌場となる林の下層植生の状態や、餌資源となる小魚や昆虫等が豊富に生息する場所が失われると、鳥類自体にも影響が出る可能性がある。